

私のまちの「ダイオキシン」工事がはじまります

説明会 8月19日(日) 朝10時～北陵小学校体育館

7月26日付け「清掃事務所整備工事の実施について(お知らせ)」発行;川西市美化推進部・公共施設マネジメント室のチラシはお宅に届きましたか。(美山台・丸山台地域へは全戸、伏見台は自治会に配布済みとのこと)

旧北部ごみ処理センター(丸山台3丁目)の焼却炉棟・高度排ガス処理棟・煙突などの撤去工事、及び、職員約100人が移転・勤務する清掃事務所や2tパッカー車21台・2tダンプ車12台・軽トラック3台などを含む清掃車両基地、職員用駐車場などの建設工事(9月上旬から約2年間の予定)がはじまります。作業時間など住民説明会実施のお知らせですが、このチラシだけでは十分な情報とは言えないので、この間「たんぽぽだより」でお伝えしていた内容・課題や、ダイオキシン類の測定結果(裏面)などお伝えします。

私(黒田)は、旧北部処理センター(1984(S59)年建設)稼働終了後(2009(H21)年3月末)から、同施設の解体・撤去を求めてきましたが、出在家町からこの場所への「車両基地移転」の課題※解決について、同地域にある旧々焼却炉(1971(S46)年6月から50tバッチ炉2基稼働)撤去跡地の汚染物質調査・対策も一緒に実施すべきと提案していますが、皆さんはいかがお考えでしょうか。

安心・安全な住宅団地としての将来を託す大きな課題です。ぜひ、質問などある方は説明会へお出てください。

※この写真は、R173・深谷バス停付近から撮ったものです。

丸山台・伏見台へつながるこの道路(延長440.2m)は、幅員6.7~15.8mで狭く、急斜面(最大約14%、最小8%)。通行量は増え続けていますが、歩道はありません。

住宅地には通学路がありません。(歩道なし)

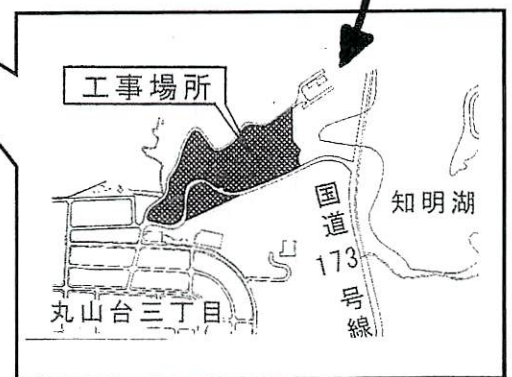
R173・すぐ近くにトンネルやバス停があり、毎日の清掃車両が行き交うことで交通網への影響や安全確保は担保されるのか。

凍結や降雪の課題も。

約100人の職員の通勤も同じ課題をもつことになります。



旧々焼却炉は、13年間稼働、(1990(H2)年)解体されましたが、ダイオキシンなどの法律がなかったため、何も調査・対策も行われておらず、今回の工事箇所からも外れています。(矢印・この場所が跡地です)



上記のように、大型車両が入れないような道路・場所が、車両基地となるだけでなく、現在も取り抜け道路となっている課題を含め、今後にも大きな影響を及ぼします。

今回の工事(ダイオキシン類等の撤去など)における、周辺住民への安全確保・生活環境への影響などを含め、情報提供・説明責任を求めると共に、将来に問題を残さないよう、知恵を出し合ひましょう。

参考・・・出在家町にある現在の清掃事務所(1977(S52)年建設)は、鉄筋コンクリート造・耐震化|s値0.72

黒田みちのたんぽぽだより・号外

旧北部処理センターの焼却炉解体に伴うダイオキシン類等の調査結果について

1 経過と施設整備の内容について

昭和52年に分庁舎を建設し主に清掃事務所として活用してきましたが、現在老朽化が進み大規模な改修が必要となっています。

このような状況から平成27年に策定した公共施設等再配置計画に基づき、丸山台3丁目にある旧北部処理センターを再整備し、移転する計画を進めています。

再整備の主な内容は、管理事務所棟を清掃事務所として改修するとともに、焼却炉棟、高度排ガス処理棟及び煙突を撤去し、その跡地に駐車場を整備します。

2 解体工事の安全確保レベルの決定について


旧北部処理センターを解体する際、周辺環境への影響を及ぼさず、安全を確保するために、焼却炉等の内部のダイオキシン類をはじめとした汚染物質の状況を調査しました。

平成28年8月8日、平成29年5月8日に焼却炉等の内部に付着等するダイオキシン類を採取し、その濃度を測定した結果は次の表1のとおりです。

表1 ダイオキシン類測定結果

No.	試料採取位置	測定結果	残置灰量
1	焼却炉 堆積物	1号炉 260pg-TEQ/g (0.26ng-TEQ/g)	約7.1㎡
		2号炉 2,800pg-TEQ/g (2.8ng-TEQ/g)	約7.1㎡
	焼却炉 付着物	1号炉 24pg-TEQ/g (0.024ng-TEQ/g)	
		2号炉 470pg-TEQ/g (0.47ng-TEQ/g)	
2	ガス冷却室 付着物	1号炉 7,300pg-TEQ/g (7.3ng-TEQ/g)	
	2号炉 6,000pg-TEQ/g (6ng-TEQ/g)		
3	有毒ガス除却装置 堆積物	1号炉 68,000pg-TEQ/g (68ng-TEQ/g)	約5.1㎡
		2号炉 90,000pg-TEQ/g (90ng-TEQ/g)	約5.1㎡
	有毒ガス除却装置 付着物	1号炉 34,000pg-TEQ/g (34ng-TEQ/g)	
		2号炉 36,000pg-TEQ/g (36ng-TEQ/g)	
4	集塵機 堆積物	1号炉 25,000pg-TEQ/g (25ng-TEQ/g)	約3.8㎡
		2号炉 170,000pg-TEQ/g (170ng-TEQ/g)	約3.8㎡
	集塵機 付着物	1号炉 59,000pg-TEQ/g (59ng-TEQ/g)	
		2号炉 66,000pg-TEQ/g (66ng-TEQ/g)	
5	煙道 付着物	1号炉 41,000pg-TEQ/g (41ng-TEQ/g)	
		2号炉 5,500pg-TEQ/g (5.5ng-TEQ/g)	
6	ダスト貯槽 堆積物	870,000pg-TEQ/g (870ng-TEQ/g)	約0.5㎡
	ダスト貯槽 付着物	1,000,000pg-TEQ/g (1,000ng-TEQ/g)	
7	混練機 付着物	9,400 pg-TEQ/g (9.4ng-TEQ/g)	

※参考:1pg(ピコグラム)=1兆分の1g TEQ/g=1g当たりのダイオキシン類の毒性量(ティーイーキュー)

※残置灰について、数値有については一般廃棄物となり、法基準に基づき適切な処分地に処分を行います。  表示は産業廃棄物となります。

3 ごみ焼却施設内の滞留水について

灰ピット(空間)などに溜まっている雨水(以下、「滞留水」という)についても、解体に伴ってその処理方法を決定するために、そこに含まれる汚染物質の濃度調査を行い表2の結果を得ました。

表2 滞留水における汚染濃度調査結果

No.	試料採取位置	下水道排水基準値超過項目	測定結果	排水基準値
1	灰ピット	ダイオキシン類	58pg-TEQ/L	10pg-TEQ/L
2	ごみピット	カドミウム	0.038mg/L	0.03mg/L
3	灰コンベア室	ダイオキシン類	12pg-TEQ/L	10pg-TEQ/L

この結果、滞留水については浄化装置等により下水道排出基準値内に浄化した後、公共下水道へ排出し、滞留水の底にある汚泥については一般廃棄物等の処分業許可を受けた処分地に搬出します。

4 その他調査の結果について

(1) 滞留水の漏水確認

3の調査に合わせて、滞留水の漏水確認調査を行い、表3・表4に示す結果を得ました。

測定結果は全て環境基準を大きく下回っており、漏水もないことから、環境への影響がないことを確認しております。

表3 観測井戸による地下水水質分析結果

(観測井戸=地下水の水質を分析するための試料を採取するために、センター敷地内の上流と下流に設けた井戸)

No.	試料採取位置	ダイオキシン類		カドミウム	
		測定結果	環境基準値	測定結果	環境基準値
1	施設上流側	0.044pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L	検出せず	0.003mg/L
2	施設下流側	0.054pg-TEQ/L		検出せず	

表4 地下土壌分析結果(ダイオキシン類)

No.	試料採取位置	測定結果	環境基準値
1	施設下流側	0.000018pg-TEQ/g	1,000pg-TEQ/g

(2) 敷地外に排出される雨水の確認

旧北部処理センターの敷地外に流出している雨水についても万全を期する意味から、敷地内の最終雨水枡の水質調査を行った結果、表5に示す通り下水道排出基準値を下回っていたため、問題がないことを確認しております。

表5 敷地内最終雨水枡の水質分析結果

No.	試料採取位置	調査項目	測定結果	排水基準値
1	雨水最終枡	ダイオキシン類	1.0pg-TEQ/L	10pg-TEQ/L
		カドミウム	0.0005mg/L	0.03mg/L